

～ 設立 10 周年記念 第 10 回「狭山市民芸術祭」～

「さやま民話風土記」キックオフ開催！

文団連が総力をあげて取り組む「市民芸術祭」。そのメインイベントである企画公演。キャスト・スタッフもきまり、関係者一堂に会しての顔合わせが 100 名近くの出席者で開催され、梅雨空を吹き飛ばす熱気を感じた。以下、当日のレポートです。

6 月 21 日（日）の午後、会場は中央公民館のグリーンホール。片桐会長の挨拶、小高顧問、役員の紹介に続き、監修者の一員として狭山の歴史に詳しい仲川市長のお話し。「さやま言葉」についてイントネーションのないこと、「ほりかね」か「ほりがね」か？等、興味深い内容。

続いて公演統括の横山さんより関係者の紹介。作・演出の「さねとうあきら」さんは、「東京生まれだが狭山に住んで 30 年以上。10 年前、文団連で『さやま今むかし』をやったが、今回はスタッフも充実して良いものが出るか楽しみです。」

「狭山の特徴は、真ん中を流れる入間川、そして鎌倉街道の路が入り交じり、市内には大木も残っていて歴史もあり、川のこちら側とあちら側で物語を書いた。今坂さん、広沢さん、博物館館長の高橋さん達の知識、仲川市長の郷土愛・・・狭山の民話が必ずあるはず。これを掘り起こして現代に残したい。狭山事件だけが狭山では情けない。もっと良いものがあることを発信したい。しかしこの作品を舞台にあげるのは大変なこと。スタッフの協力をぜひお願いしたい・・・」と話された。



童画の池原昭治さんは、狭山に住んで 40 年以上、民話の世界を絵で表現したい。音楽監督の苦部地英一さん他、31 曲もの作曲も着々と進んでいて楽しみ。一部原作者の今坂柳二さんは「140 の昔話を集めた。むかし言葉を後世に伝えたいので『狭山ことば』で書いた。第一走者と思って頑張りたい」と話す。美術の伊藤亘さん他、各部門のエキスパートも参加するが、続きは次号に。

来年 2 月 28 日（日）の大ホール公演に向け、全体稽古 4 回。合唱・群読などシーンごとに練習の日程も決まり、本番に備えることに。会報「ネットワークニュース」では様々なレポートをお伝えしていく予定です。

（広報委員会 高沢記）

「第 10 回 狭山市民芸術祭」

- ・開催日 平成 22 年 2 月 23 日（火）～ 28 日（日）
- ・会場 狭山市民会館全館（23～26 は 1F 展示のみ）
- ・テーマ 「さやまの風と土」
- ・内容 作品展示・茶席・テーマ展示他
公演「世代を超えて」（小ホール）
企画公演「さやま民話風土記」（大ホール）

「市民会館」指定管理者運営への移行に伴う署名提出

平成 22 年度から、市民会館が指定管理者に業務移行することの決定を受け、文団連として以下の内容の要望書を、6 月中旬に提出いたしました。

- ・平成 22 年度以降も「市民芸術祭」を共催としていただきたい
- ・舞台担当業者は、引き続き SBS（埼玉舞台サービス）を希望する

『さやま民話風土記』シリーズ連載開始！

第 10 回「狭山市民芸術祭」企画公演の上演台本『さやま民話風土記』の内容を、作者さねとう あきら氏の許可を得て、抜粋して 7 月号より会報上でご紹介します。

池原昭治さんの挿絵とともに、懐かしい「狭山の小宇宙」に触れてみましょう！

（編集：広報委員会）